

一般質問

宮本
議員

○人口対策と出生率向上と少子化対策について

質 本市人口は、年々減り続けています。私は、先に岡山県奈義町を視察しましたが、同町では少子化対策を実行し、15年目には対策の芽が吹いて人口が増えています。6千人の町で50回ぐらい会議を開き、市民と共有して人口対策を行ったと聞いています。本市は、まち・ひと・しごと創生会議で、2040年の人口目標1万8千人、60年1万6千人を掲げていますが、市民の皆さんは何回会合を重ねて人口施策を策定したのかご存知の方は少ないと思います。今一度、市民全体と共有する検討会を開催する考えはありませんか。

副市長 人口ビジョンについては、推計人口に対し少子化対策等を講じて客観的に目標数値を定めておりますが、この目標に向かってはいろいろな施策を展開しなくてはなりません。具体的な施策を検討するにあたっては、当然、広く市民のお考えも聞きながら実行しなければなら

と考えております。

○ふるさと納税と地域づくりについて

質 道の駅と連携した耕作放棄地の解消と高齢者の生きがいづくりを提案したい。ふるさと納税のお返し特産品として野菜セットが大変好評で、農家の所得向上に貢献しています。市内には耕作放棄地が33万坪もあり、この内に耕作可能な土地が1万4千坪あると聞いております。松浦道の駅では農地を借りて、農生産物を作って頂いている事例もあります。ふるさと納税とタイアップして、放棄地を解消し高齢者の生きがい対策につながるような何か手だてがないかお尋ねします。

市長 今後のふるさと納税の課題は、お礼品の種類を増やすこと、その種類ごとの数量をしっかりと確保することだと認識しております。特に農水産物をどう確保するかがポイントだと思えます。ご指摘のとおり耕作放棄地の解消とあわせて農業所得の向上、高齢者の方々の生きがい対策にもなるということでは大きな効果があると考えます。農地に関してはいろいろな課題もありますので、今後よく検討してぜひ実現させたいと思っております。

一般質問

川下
議員

○福島町における交通便利性の向上への取り組みについて

質 自由乗降が可能な福島島内にある釜の旧停留所付近での乗降は安全から運転手の判断に委ねられている。当地での乗降を希望する声は、経済の中心地、高齢者の体力的負担軽減、市の「住み続けたいまちづくり」の方針などの面から考えると理に適っている。再考を求めたい。

企業立地課長 ご指摘の旧福島港バス停については、待合所を提供されていた商店の閉店により福島支所を待合所として提供し、バス停を設けさせて頂いた経緯があります。

市長 議員が申されますとおり、そこに住んでおられる方々の切実な要望だということは十分理解しておりますが、福島支所に待合所を整備して、この問題については一定の解決が図られていると認識しております。

質 福島町内には路線バスが通らない交通空白地がある。これからは更に高齢者が増え、いわゆる住民の足の充実が求められます。小型バスの活用あるいはオンデマンド方式など島内をカバーできるような抜本的な見直しが必要と考えるがいかがか。

企業立地課長 本年度、松浦市地域

公共交通活性化協議会が主体となり、地域公共交通網形成計画をつくります。その中で、福島町についても、地域住民のニーズに合った交通体系の模索をしてまいりたいと考えております。

○高齢者がいきいきと暮らせるまちづくりを目指して

質 松浦市にお住まいの高齢者の方々にはいきいきと元気に暮らして頂きたい。そのためには生きがいや楽しみが大事な要素だと思います。そのような環境づくりに市はどのような取り組みをしていますか。

長寿介護課長 現在、関係機関、地域と一緒に進めているところがあります。特に力を入れているのが、住民主体の集いの場の立ち上げとその支援です。現在、地域の皆様のご協力のもとに、市内8か所で介護予防や助け合いの交流の場を発足して頂いております。また、わくわく・おでかけ支援事業のほか老人クラブのレクリエーション活動等の支援についても施策を講じています。

質 加えて楽しみを具現化するには収入面の確保も欠かせません。企業での就労が難しいなかで、ご自身の体力のペースに合わせて仕事ができる仕組みづくりが必要です。市のお考えを伺いたい。

市長 市として今後、取り組みを考えていく必要があると思っております。